

令和7（2025）年度
施設コンサルテーション事業
事業実施報告書

京都市発達障害者支援センター“かがやき”

はじめに

京都市発達障害者支援センター“かがやき”は、社会福祉法人京都総合福祉協会が京都市から委託を受けて平成 17（2005）年に開所し、今に至ります。この間、関係各法に発達障害が位置付けられ、発達障害児者に対する施策が充実しつつあります。当センターでも、普及啓発事業やケースを通して各機関・事業所と連携しながら、正しい知識に基づき適切な支援を拡げることを目指してまいりました。

このような間接支援の一環として、当センターでは、地域の支援力の向上を目指し、平成 30（2018）年度後期より、施設コンサルテーション事業を実施しています。当事業では、行動障害等の相談に対し、事業所への訪問・連絡等により、対象者のアセスメント・支援を事業所と協働で行い、問題行動の軽減や安定した施設生活につなげるサポートを行います。また、この事業を通して、事業所全体の発達障害のある利用者への特性理解の促進や支援力の向上、事業所職員がアセスメントから支援を組み立て検証する PLAN-DO-SEE のプロセスを行えるようになることを目指します。

当事業は、令和元（2019）年度までは試行期間として、法人内事業所を対象に実施し、事業のシステム作りに取り組んでまいりました。そして令和 2（2020）年度より、京都市内の福祉サービス事業所に対して広く周知し、成人期の発達障害の方々の支援をされている施設を対象に、本格的に開始となりました。

2025 年度は、1 か所の事業所と、「発達障害特性の理解を深め、アセスメントにもとづく支援の PLAN-DO-SEE サイクルの土台をつくる」ための取り組みを行いました。実施事業所の皆様には、施設コンサルテーション事業に対してご理解をいただき、熱い思いで取り組んでくださったことに感謝いたします。

この報告書、そして当事業が、発達障害の方々の支援をされている皆様にとって「理解」や「気づき」の基となり、「できる」力につながれば幸いです。

令和 8（2026）年 6 月
京都市発達障害者支援センター“かがやき”

令和7（2025）年度

施設コンサルティング事業 実施事業所

《研修コース》

- 日中活動サービス支援型 Stars 京都久世（株式会社 Stars）

日中活動サービス支援型 Stars 京都久世（株式会社 Stars）

〒601-8204 京都市南区久世東土川町 285-2

TEL 075-406-6058

FAX 050-316-6333



◆ 実施コース 研修コース

◆ 実践報告

1. 事業所概要

サービスの種類：日中活動サービス支援型

定員 20名	現員 24名	1日平均利用者数 20名
利用者平均年齢 48.95歳	障害支援区分平均 4.7	

コンサルティング参加職員：5名（サビ管1名、支援職員4名）

2. 研修に関するニーズ、相談内容（事業所の課題、職員の困りごとなど）

応募のきっかけ

利用者さんの担当者会議で、相談支援事業所から「かがやきの施設コンサルティング事業がある」と聞き、事業の存在を知りました。

事業所に合わせた研修内容を相談しながら進めていけること、施設コンサルティング事業を利用して研修を受けてスキルアップしている事業所があることを聞き、是非とも受けたいと思い応募しました。

事業所の課題

未経験や無資格の職員が多く在籍しており、支援の統一が難しい面があります。基本的な障害に対する知識や考え方等を、職員間に上手く伝える事が出来ていませんでした。

3. 職員研修の計画内容

テーマ

『自閉スペクトラムの基本理解と支援のポイント』

方法（講義のスタイル、人数と回数、研修後の業務への応用計画など）

- ・ かがやきの施設で開催。
- ・ パワーポイントと資料を使用しての講義。
- ・ 研修回数 2回（初回講義と、事後研修）
- ・ 研修参加人数 5名。約 1 時間半程度。
- ・ グループワークを希望し組み込んでもらい、研修の中で 30 分程度行う。
- ・ 研修後は利用者さんへの支援の中で身体プロンプトを意識的に実施し、利用者さんのできることを

探った。

- ・ スケジュールの必要な利用者さんのスケジュール形態を変更した。

before



after



4. どのような変化が生まれたか（事業所職員の理解・気づき、利用者の変化など）

1. 上記写真のようにスケジュールを変更してみた。

左のスケジュールでは、“順番”に取り組むのではなく、“これがやりたい”と指さしで予定の変更希望を伝えられたので、時計の絵を入れてみたが、細かい針の認識が弱く手がかりとしては活用しづらいことが分かった。そのため、今はデジタル時計のスケジュールを作成中。

分かりやすく、一度に示す情報量が少なくなるように（盛り沢山にならないように）変更していく。
⇒利用者さんが何を認識しているかを再確認し、検証し変更をしていくことが大切だと感じた。

2. 利用者さんへの支援の中で、身体プロンプトを実施してみた。

ゴミ箱のゴミを捨てに来てもらう、カーテンを閉めてもらう、洗濯物をたたんでもらう等の場面で、口頭だけの指示ではなく、後ろや横から手を添えて動きを教える「身体プロンプト」を実施した。

⇒利用者さんが何ができるか、どこまでできるかを探ることで、出来る事や強みを確認し実施することで、自立した生活に近付いていること感じた。

その後の変化

- ・ 全体的に職員の意識が変わり、やりがいを持って支援してくれているように感じている。
- ・ 担当を持ってもらい、毎月社員と支援の話をすることを目標に実施する事で、利用者さんにとって何が必要か、何ができるか、を考える時間を作り、より深く利用者さんを理解することに繋がった。
- ・ 分かりやすく伝える、分かりやすく教える事で、利用者さんの自信にも繋がり、やりがいを感じて“一つの仕事”として定着してきている。



5. 今後の課題と展望

新人職員育成の為、既存の職員がしっかりとスキルアップをして、新しい職員にポイントを伝えることで、利用者さんと楽しんで関わっていただけることを実感して頂けるよう、今後も勉強が必要であると考えています。

今回のコンサルティングで学んだことを、今後も伝えていけるようにしていきたいと思います。ぜひともアセスメントコースも参加させて頂きたいと思っています。

(2026.3)